

「さいたま市子ども読書活動推進計画(第四次)」事業実施状況調査表

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

施策 基本方針	No.	計画 書掲載 頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和4年度の事業実績		令和5年度の事業の方向性				
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		方向性				
							達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由			
普及・啓発	-	1	「さいたま市子ども読書の日(毎月23日)」の取組	子育て支援課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	単独型子育て支援センターにおいて、ポスターを掲示する。	B	単独型子育て支援センターにおいて、ポスターを掲示した。	B	普及のため、ポスター等配布された場合、掲示を行う。			
	-	2	「冬の読書キャンペーン」の取組	子育て支援課	「冬の読書キャンペーン」の推進	単独型子育て支援センターにおいて、子どもの読書活動を推進する取組を実施する。	B	単独型子育て支援センターにおいて、絵本の読み聞かせなど子どもの読書活動を推進する取組を実施した。	B	期間中、単独型子育て支援センターにおいて、読み聞かせ等実施する。			
	-	20	エ 「さいたま市子ども読書の日(毎月23日)」の取組	資料サービス課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	家庭に向けて「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発広報活動を行う。	B	「さいたま市子ども読書の日」普及啓発のためポスターの作成、配布、掲示及び図書館ホームページのPR	B	「さいたま市子ども読書の日」普及啓発のため、ポスターを500枚作成し、市立図書館や公民館のほか、保育所や児童センター等にも送付し掲示を依頼した。			
	-	4	オ 「冬の読書キャンペーン」の取組	資料サービス課	「冬の読書キャンペーン」の推進	「冬の読書キャンペーン」の取組を行い、家庭での読書が充実するように働きかける。	B	「さいたま市子ども読書の日」周年記念キャンペーンの実施	B	「さいたま市子ども読書の日」周年記念キャンペーンとして、市立図書館25館でブックガードの掲示や図書館の裏側潜入ツアー等のイベントを実施した。			
	-	5	オ 「さいたま市子ども読書の日(毎月23日)」の取組	保育課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	日常の保育や読書活動の中で子どもたちが絵本を楽しむ環境づくりを充実させる。	B	図書館職員や地域ボランティアと連携を図り、「さいたま市子ども読書の日」におはなし会を実施した。	B	「さいたま市子ども読書の日」におはなし会を実施する。			
	-	6	カ 「冬の読書キャンペーン」の取組	保育課	「冬の読書キャンペーン」の推進	ポスターや園だより、掲示板等により保護者に家庭読書の楽しさや大切さを啓発する。	B	ポスターや園だより、掲示板等により保護者に家庭読書の楽しさや大切さを発信した。	B	事業を予定通り実施し、「冬の読書キャンペーン」を保護者に発信することができた。			
	-	7.1	ア 児童センターでの子ども読書活動の推進	子ども政策課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	児童センターにおいて、ポスターを掲示、おすすめの本の展示、本の貸出し等を行い、普及啓発を図る。	B	ポスターを掲示し、児童の読みたい本やおすすめの本の紹介コーナーを作成、展示を行った。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発のためポスター掲示や本の貸出しの再開、行事等で呼びかけを実施する。	
	-	7.2			「冬の読書キャンペーン」の推進	児童センターにおいて、子どもの読書活動を推進する取組を実施する。	B	「リクエストほんだな」、「児童センターおすすめの本コーナー」を設置し、新刊の購入を行った。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	ポスター掲示やお薦めの本を展示し、利用者が興味を持ちやすい本の展示を行う。	
	-	8.1	イ うらわ美術館での子ども読書活動の推進	うらわ美術館	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	企画展の開催に合わせて絵本の読み聞かせ会を実施し、ポスター掲示やSNS等で情報発信を行う。	B	企画展の開催に合わせて「図書館員とボランティアによる絵本の読み聞かせ会」を実施した。併せて、ポスター掲示やSNS等での情報発信を行った。	B	昨年度同様に人数制限等、コロナ対策を万全に整えた上で実施した。参加人数は昨年度の72名より若干増え、74名の参加が見られた。	B	コロナ禍での制限緩和に伴い、参加人数を前年度より増やすなど、より多くの参加者に来ていただけるように運営上の工夫をしながら実施する。併せて情報発信も継続して行う。	
	-	8.2			「冬の読書キャンペーン」の推進	市内の小学校向けに「本の出張授業」を行い、本に親しみかけづくりをするとともに、冬の読書キャンペーンの普及啓発をSNS等と併せて行う。	B	本の出張授業の際に、市内小学校の児童に向けて担当による啓発を行った。	B	本の貸出件数は昨年度と同様に10件となったが「本の出張授業」の件数は大幅に増えたため、授業と合わせてより多くの子ども達へ啓発することができた。	B	本の出張授業と合わせて、児童生徒が利用している端末内のアプリ等も活用するなど、より多くの子ども達へ普及啓発ができるようにする。	
	-	9.1	ウ 公民館での子ども読書活動の推進	生涯学習総合センター	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	公民館内にポスター等を掲示するなど、事業の普及啓発を図る。	B	公民館内にポスター等を掲示するなど、事業の普及啓発を図った。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	事業周知のため継続して実施する。	
	-	9.2			「冬の読書キャンペーン」の推進	子どもの読書活動推進や保護者への普及啓発活動などの取組を各公民館において実施する。	B	子どもの読書活動推進や保護者への普及啓発活動などの取組を各公民館において実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	他館・他施設の取組や取組シートを参考にしながら、取組の充実にも努める。	
	-	10.1	ケ 「さいたま市子ども読書の日(毎月23日)」の取組	指導1課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	学校図書館内にポスター等を掲示、「さいたま市子ども読書の日」にちなんだ読書活動を各校で工夫して実施する。	B	学校図書館内にポスター等を掲示した。「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発に向け、子ども読書の日にちなんだ取組を各学校で工夫して実施した。	B	学校図書館内のポスターの掲示や、「さいたま市子ども読書の日」にちなんだ読書活動を図書館だよりや校内放送等で周知した。また、図書委員会の発想を生かした取組を実施した。	B	引き続き、ポスター掲示等で普及啓発を行う。	
	-	10.2			学校だより、図書館だより等の広報活動を通じた家庭への啓発	学校だより、図書館だより等による情報発信を通じて、普及啓発を図る。	B	学校だよりや図書館だよりでの情報発信を行った。	B	学校だよりや図書館だよりでの情報発信に加え、学校ホームページにおいて取組を紹介する学校が見られた。	B	引き続き、学校だよりや図書館だより、学校HPによる家庭への啓発を促していく。	
	-	10.3			「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	「さいたま市子ども読書の日」にちなみ、各校で生徒の読書意欲を高める活動を行う。	B	各クラスにおすすめの本を紹介したチラシを配布したり、図書館だよりやポスター等を作成したりするなどした。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	今後も図書館だよりやポスター等を通して、啓発に努める。	
	-	10.4			学校だより、図書館だより等の広報活動を通じた家庭への啓発	学校だより、図書館だより等を活用して、家庭や地域への普及啓発を図る。	B	図書館だよりをホームページにアップし、図書委員のおすすの本と新刊の紹介を実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	ホームページに図書館だよりをアップし、読書活動の魅力を積極的に発信する。	
	-	11.1			「冬の読書キャンペーン」の取組	指導1課	「冬の読書キャンペーン」の推進	子どもたちへの読書の関心を高め、読書をする機会を増やすとともに、学校図書館を活用する取組を行う。	B	図書委員会が主体となり、図書クイズや図書紹介などの企画を考え、図書館利用を促すとともに、多様な本に触れる機会を増やした。	B	司書教諭、学校図書館司書が中心となり、図書委員会が主体となって行う、ビンゴや図書紹介などの企画、朝会や朝の時間を利用した読み聞かせにより、多様な本に触れる機会を増やした。	B
-	11.2	高校教育課			「冬の読書キャンペーン」の推進	各校で学校図書館を利活用する取組を行い、生徒の読書への関心を高める。	B	図書委員のおすすの本を「読書マップ」に記入し、おすすの本とともに図書館で展示をした。また、貸出期間の延長やくじ引き大会を実施するなど、読書に興味を持ってもらえるよう工夫した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	読書に興味・関心を持ってもらえるように、生徒のアイデアを生かしながら、イベント等を実施していく。	
-	12.1	33	セ 「さいたま市子ども読書の日(毎月23日)」の取組	資料サービス課	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発	毎月23日の「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発を行う。	B	PRポスターや図書館ホームページを活用した情報発信	B	PRポスターの掲示や動画の作成を行い、「さいたま市子ども読書の日」を普及啓発するための情報発信をすることができた。	B	「さいたま市子ども読書の日」の普及啓発を継続して行う。	
-	12.2		ソ 「冬の読書キャンペーン」の取組	資料サービス課	「冬の読書キャンペーン」の推進	「冬の読書キャンペーン」では、特別イベントや展示等を開催し、図書館への来館を促す取組を行う。	B	各図書館で特別イベントや展示等の実施	B	おはなし会、人形劇、謎解き、保護者向けの読み聞かせ講座などの催し物を各館で実施することにより、図書館への来館を促すことができた。	B	引き続き「冬の読書キャンペーン」を実施し、図書館への来館を促す取組を行う。	
-	13	17	子ども読書活動推進のためのSDGs普及啓発	資料サービス課	子ども読書活動推進のためのSDGs普及啓発	本計画で掲げた3つの目標の達成に向けた取組を行うとともに、SDGsの普及啓発を行う。	B	関連絵本の紹介展示やパンフレットの配布	B	中央図書館、北浦和図書館、与野図書館、桜図書館でSDGsに関する資料展示及びブックリストの配布を行い、SDGsへの理解を深める取組を行った。	B	引き続き展示やパンフレットの配布を実施していく。	
							B	ホームページコンテンツの更新	B	「こどもSDGs」ページ内で紹介する資料を追加し、公開することができた。	B	引き続きホームページコンテンツの拡充を図る。	

「さいたま市子ども読書活動推進計画(第四次)」事業実施状況調査表

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

施策	基本方針	No.	計画書掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和4年度の事業実績		令和5年度の事業の方向性				
								内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由	
								達成度	達成度の理由	達成度	達成度の理由			
(1) 家庭での取組		(2) 14	19	ブックスタートの推進	子育て支援課	ブックスタート事業	単独型子育て支援センターにおいて、絵本などが入ったブックスタートバックの配布及び読み聞かせや本の選び方をアドバイスする。	B	事業を予定どおり実施することができた。(対象者数9,773人、引換者数6,287人、引換率64.3%)	B	年間を通じて、ブックスタートバックの配布及び読み聞かせ等継続実施する。			
		(1) 15		イ 「家読(うちどく)」の推進	資料サービス課	「家読(うちどく)」の推進	家庭での読書活動が充実していくように、家庭に向けて家読応援コンテンツを作成するための準備ページを公開する	C	コンテンツの構成や内容について検討を完了。現在4つの家読応援コンテンツを作成中で、近日中に公開予定。	B	おすすめの本を紹介する等家読応援コンテンツを増やし、情報を発信していく。			
		(1) 16.1	20	ウ 家庭での読み聞かせの支援	資料サービス課	家庭における発達段階に応じた読み聞かせ活動の普及啓発	家庭における発達段階に応じた読み聞かせの充実を図るとともに、保護者等が子どもの読書に関わることができるよう取組を行う。	B	「すくすく読み聞かせダイアリー」や「とよ丸読書手帳」の配布	B	市内各図書館の窓口及びおはなし会等のイベントで配布した。	B	引き続き読書手帳の配布や保護者向け読み聞かせ講座を実施していく。	
		(3) 16.2					子どもと本を楽しむためのコンテンツの作成・PR	子どもと本を楽しむため案内ページを図書館ホームページに作成し、情報発信を行う。	B	図書館ホームページで絵本の読み聞かせ動画やおすすめの本の紹介等のコンテンツを公開	B	図書館ホームページ内の「とよ丸チャンネル」において、子育て世代が子どもと本を楽しむための情報発信をすることができた。	B	引き続きホームページコンテンツを充実させるとともに、子育て世代に向けたデジタルコンテンツの配信等に向けて調査研究を行う。
		(2) 16.2					ア 絵本に親しめる環境づくり	保育課	絵本等の読み聞かせの実施	日常の保育の中に、絵本等の読み聞かせの機会を多くつくる。	B	日々の保育の中で絵本等の読み聞かせを実施した。	B	絵本の読み聞かせを通じて想像する喜びや言葉への興味・関心をはくむ。
(2) 保育所・幼稚園での取組		(2) 18.1	21	イ 保護者へ読み聞かせの大切さを発信	保育課	園だより等による読み聞かせの普及啓発	保護者に子どもへの読み聞かせの大切さを伝えるほか、絵本の紹介等も行う。	B	保護者に子どもへの読み聞かせの大切さを伝えるほか、絵本の紹介等も行う。	B	保護者に園だより・クラスだより・懇談会・掲示板等で絵本の紹介や読み聞かせの大切さを伝えていく。			
		(2) 18.2				1日保育士体験等を通じた読書活動の啓発	1日保育士体験・保育参加を通して、読み聞かせの大切さや親子のかかわりの楽しさを伝える。	A	1日保育士体験・保育参加の中で絵本等の読み聞かせを行い、保護者にも読み聞かせの体験をしてもらった。	B	1日保育士体験・保育参加の中で保護者に絵本等の読み聞かせを体験してもらい、体験を通して子どもとのかかわりの楽しさを伝える。			
		(3) 19.1	ウ 地域との連携推進	保育課	地域ボランティアによる読み聞かせ等の実施	地域との連携を図り、おはなしボランティアによる読み聞かせやストーリーテリング等を行う。	B	地域ボランティアによる読み聞かせ等を実施した。	B	19園で地域ボランティアによる、絵本の読み聞かせ、素話等を楽しむことができた。(昨年度17園)	B	引き続き、地域ボランティアと連携を図り、事業を継続する。		
		(3) 19.2			地域支援事業	子どもの年齢に合わせた絵本の紹介、パネルシアター等を通じて、地域の保護者にはおはなしや絵本の楽しさを伝える。	B	地域子育て支援センターに来園した親子への絵本・紙芝居の読み聞かせを実施した。	B	地域子育て支援センターにて読み聞かせの時間を設け、親子とともに楽しめる時間をつくる。				
		(3) 20.1			エ 読み聞かせ活動を充実させるための図書館の活用	資料サービス課	「図書館ブックリストバック」の提供・PR	保育所や幼稚園での読み聞かせに役立つブックリストバックを提供し、本選びや貸出し等に活用してもらう。	B	保育所(229箇所)へのアンケート調査を実施し、ブックリストバックを配布	B	希望のあった109施設にブックリストバックを配布した。	B	引き続きブックリストバック配布に向け、アンケート調査の送付先について検討する。
		(3) 20.2	図書館職員によるおはなし会を実施	図書館と連携を図り、図書館職員による読み聞かせ等を行う。			B	図書館職員による読み聞かせ等を実施した。	B	図書館職員と連携を図り、38園で実施した。(作年度39園)	B	引き続き、図書館職員と連携を図り、事業を継続する。		
		(3) 20.3	図書館の団体貸出サービス利用	図書館と連携を図り、たくさんの絵本等に触れる機会を作る。			B	図書館での絵本の貸出しサービスを利用した。	B	図書館と連携を図り、34園が貸出しサービスを利用した。(昨年度49園)	B	引き続き、絵本等に親しむ機会を設けていく。		
		(3) 21	キ 保育士を対象とする研修の実施	保育課	保育士を対象とする研修の実施	保育士の資質向上のため、読み聞かせなどの研修会を実施する。	-	研修未実施のため。	B	資質向上のため、研修会を年2回実施する。				
		(3) 地域での取組		(1) 22	23	ア 児童センターでの子ども読書活動の推進	子育て支援課	単独型子育て支援センターにおける読み聞かせ等の実施	単独型子育て支援センターにおいて、読み聞かせや本の選び方をアドバイスする。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	年間を通じて、読み聞かせ等継続実施する。	
				(1) 23.1				子ども政策課	児童センターにおける読み聞かせ等の実施	職員やボランティアによる読み聞かせ、本の閲覧や貸出しなど、来館者が楽しく読書に対する興味やわくわくな取組を実施する。	B	乳幼児事業を中心に職員や図書館職員による読み聞かせを実施した。	B	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止により計画通り読み聞かせを実施することができなかったが、職員が読み聞かせを行い、親子で絵本に親しむ機会を提供した。
(3) 23.2	資料サービス課			読み聞かせボランティア向け講座の開催				児童センターと連携し、児童センターで活動する読み聞かせボランティアに向けて支援を行う。	B	「ストーリーテリング講座」及び「読み聞かせスキルアップ講座」のチラシを児童センター18施設へ配布した。	B	児童センターで活動する読み聞かせボランティアに講座への参加を呼びかけ、スキルを高めてもらえるよう支援した。		
(1) 24	ウ 公民館での子ども読書活動の推進			生涯学習総合センター	うらわ美術館での出張授業の実施	本の出張授業の実施	市内の小学校向けに「本の出張授業」を行う。	A	市内の小学校向けに「本の出張授業」を実施した。	B	昨年度はコロナ禍の影響もあり、依頼数は8件となったが、今年度は27件と大幅に増加し、多くの学校に利用してもらったことができた。	B	引き続き、多くの学校に利用してもらえるように教員の研修会やSNS等でのPRを図りながら、実施を継続していく。	
(2) 25.1					「親の学習事業」において、子どもの読書に関する講座を開催	親の学習事業において、「絵本をツール」とした学習プログラムなどを行う。	B	生涯学習総合センターや一部の公民館において、親の学習事業開催時に、図書館職員による読み聞かせ等とともに、絵本をツールとした学習プログラムを実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き親の学習事業において「絵本等」をツールとした学習プログラムを実施していく。		
(1) 25.2					地域ボランティア等による読み聞かせやおはなし会の実施	地域ボランティアによる読み聞かせやおはなし会の実施	地域ボランティアによる読み聞かせやおはなし会を実施した。	B	地域ボランティアによる読み聞かせやおはなし会を実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	ボランティアと連携し、引き続き事業を実施する。	
(1) 25.3					公民館文庫活動の実施	ボランティアによる本の貸出しや読み聞かせ、工作などを実施	ボランティアによる本の貸出しや読み聞かせ、工作などを実施した。	B	ボランティアによる本の貸出しや読み聞かせ、工作などを実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	ボランティアと連携し、引き続き事業を実施する。	
(1) 25.4					図書館職員によるおはなし会を実施	図書館と連携し、図書館職員によるおはなし会を実施	図書館と連携し、図書館職員によるおはなし会を実施した。	B	図書館と連携し、図書館職員によるおはなし会を実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	図書館と共催、または連携し、引き続き事業を実施する。	
(3) 25.5					資料サービス課	読み聞かせボランティア向け講座の開催	公民館と連携し、公民館で活動する読み聞かせボランティアに向けて支援を行う。	B	「ストーリーテリング講座」及び「読み聞かせスキルアップ講座」のチラシを公民館59館へ配布した。	B	公民館で活動する読み聞かせボランティアに講座への参加を呼びかけ、スキルを高めてもらえるよう支援を行った。	B	引き続き公民館で活動するボランティア向け講座の情報提供を行い、活動を支援していく。	

「さいたま市子ども読書活動推進計画(第四次)」事業実施状況調査表

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

施策 基本 方針	No.	計画 書種 職員	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和4年度の事業実績		令和5年度の事業の方向性			
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度の理由		方向性の理由	
							達成度		達成度		方向性	
4 学校 での 取組	(3)	26.1	ア 学校図書館の環境整備	指導1課	学校図書館の環境整備	児童生徒の主体的な読書活動や学習を支援できるように、図書の記事、推薦図書の展示、室内レイアウト等の環境整備に努める。	各学校における学校図書館の環境整備	B	司書教諭と学校図書館司書とが連携を図りながら、配架図の工夫や他教育活動(国語科、さいたまSDGs教育等)との関連を意識した環境整備が行われた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(1)	26.2			「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」や「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選プラス」による読書活動の実施	「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」や「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選プラス」を活用し、子どもたちの読書活動の充実を図る。	「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」や「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選プラス」を教職員ポータルサイトと児童生徒用ポータルサイトに掲載することでいつでも活用できるようになり、子どもたちの読書活動の充実を促進した。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	引き続き電子パンフレットを活用しながら実施していく。	
	(1)	27.1	イ 読書習慣の形成と自主的な読書活動の活性化	指導1課	「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選」や「さいたま市『心を潤すこの一冊』子ども100選プラス」による読書活動の実施(再掲)							
	(1)	27.2			ビブリオバトル等読書イベントの実施	各学校において、ビブリオバトル等の読書イベントを実施する。	各学校において、ビブリオバトル等の読書イベントを実施し、図書館だより等で活動の紹介をした。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(1)	27.3			全校一斉読書の実施	各学校において、全校一斉読書を実施する。	各学校において、全校一斉読書を実施した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(3)	28.1	ウ 学校図書館を活用した授業などの学習指導の充実	指導1課	学校図書館司書・司書教諭等の研修実施	学校図書館司書・司書教諭の研修会を実施し、組織的な学校図書館教育推進体制の充実を図る。	学校図書館司書研修会、司書教諭研修会を実施し、組織的な学校図書館教育推進について、説明を行った。	B	市立小・中・中等教育・特別支援学校の学校図書館司書、司書教諭各165名を対象に、事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(3)	28.2			学校図書館活用事例の共有	蔵書の共同利用を中心とし、学校図書館活用の事例を共有する。	蔵書の共同利用を中心とし、学校図書館活用の事例を研修会等で共有した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(3)	28.3			SDGsなど現代的課題に関連する蔵書の充実	各学校において、現代的課題に係る蔵書の充実を図るとともに、特色のある蔵書整備を推進する。	各学校において、SDGsに関する蔵書を整備し、展示等を工夫することで貸出しや授業での活用を促進した。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学習センターとしての機能を踏まえ、実施していく。	
	(3)	28.4			SDGsなど現代的課題に関連する蔵書の充実	現代的課題に関連する蔵書を充実させることで、生徒の日常の課題の解決につなげる。	様々な媒体の出版情報や書評等から情報収集を行い、授業との関連を意識しながら、毎月新たに購入している。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	教職員と連携し、探究的な学習にも資するよう、蔵書の充実を努める。	
	(3)	29	エ 学校図書館コンピュータの整備による機能的な学校図書館運営の支援	教育研究所	学校図書館のICT環境整備	耐用年数を経過した学校図書館コンピュータの入替を順次行い、機能的な学校図書館運営に努める。	市内37校の小・中学校の学校図書館コンピュータの入替を行い、学校図書館運営の機能性を向上させた。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	市内13校の小校の学校図書館コンピュータの入替を行い、学校図書館運営の機能性を向上に資する。	
	(3)	30	オ 学校図書館ネットワークの充実	指導1課	学校図書館資源共有ネットワーク事業	学校と公共図書館、教育研究所を結びネットワーク便を運行する。	学校と公共図書館、教育研究所を結びネットワーク便を運行した。	B	市立学校と公共図書館、教育相談室、教育研究所を結びネットワーク便の運行を実施した。	B	引き続き、学校や公立図書館等の実態を踏まえながら、継続して行う。	
	(3)	31	カ 保護者や地域のボランティアとの連携による学校図書館の充実	指導1課	家庭や地域との連携による読書イベントの実施	各学校における学校図書館環境整備や読書活動における保護者や地域のボランティアの活用を図る。	市立小・中・中等教育・特別支援学校において、各校の実態に応じて保護者や地域のボランティアを活用した読書活動の充実を図ることができた。	B	読み聞かせや環境整備、蔵書点検などの活動等、事業を予定どおり実施することができた。	B	引き続き、学校の実態を踏まえながら実施していく。	
	(1)	32.1	キ 市立高等学校の読書活動の推進	高校教育課	ビブリオバトル等読書イベントの実施	読書イベントを学校と連携して実施し、生徒の読書のきっかけや読む本の幅を広げることにつなげていく。	ビブリオバトルを図書委員会が中心となって実施した。活動の具体的な様子は、図書館だよりに掲載した。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	今後もビブリオバトル等のイベントの内容のいっそうの充実を図り、生徒の読書活動の推進に資する。	
	(3)	32.2			市立高等学校における市立図書館と連携した取組の実施	生徒の読書離れの対策を市立図書館と連携して取り組んでいく。	「市立高校POPバトル」を開催し、生徒が選んだおすすめの本をオリジナルPOPとともに展示した。また、「さいたま市図書館利用カード」の訪問登録などを実施した。	B	事業を予定どおり実施することができた。	B	市立図書館と連携し、イベントの活性化を図り、生徒の読書への興味・関心を高める。	
	(1)	33	ク 「子ども読書の日」に関する取組の充実	指導1課	「子ども読書の日」に関する取組の実施	各学校において、「子ども読書の日」に係る読書イベントを実施する。	図書委員会が主体となり、しおり配付やクイズなどの企画を考え、図書館利用を促すとともに、多様な本に触れる機会を増やした。	B	事業を予定通り実施することができた。	B	引き続き、学習の実態を踏まえながら、実施していく。	
(3)	34	29	ア 読書環境の整備・充実	資料サービス課	読書環境の整備・充実	乳幼児期～青年期までの発達段階に応じた資料の収集をする。学習指導要領の改訂やSDGsなど子どもを取り巻く社会変化にも対応できる蔵書構成に努める。	児童書の見計らい選定会議の定期的な実施、及び子どもを取り巻く社会変化にも対応できる蔵書構成に努めた。	B	各図書館の児童・地域担当職員を集め、児童書の見計らい選定会議を毎週金曜日、年間48回実施し、子どもの成長と子どもを取り巻く社会変化に合わせた適切な資料を収集するよう努めた。	B	引き続き、定期的に児童書の見計らい選定会議を実施し、精選した児童書収集を行う。また、社会情勢を踏まえた蔵書構成に努める。	
(3)	35	イ 電子書籍サービス等の充実	資料サービス課	電子書籍サービス等の充実	児童書の電子書籍の選定・提供を行う。ICTを利用したデジタルコンテンツの充実を図る。	児童書の電子書籍の選定・提供 デジタルコンテンツの充実	B B	児童書の電子書籍を選定し、1,314冊を提供した。 図書館ホームページ内「とよ丸チャンネル」において、絵本の読み聞かせ動画や、図書館見学、工作の紹介などのデジタルコンテンツを公開し、子どもたちが本を楽しみ、図書館に親しむための情報発信をすることができた。	B B	引き続き電子書籍コンテンツの充実を図る。 引き続きICTを活用したコンテンツの充実を図る。		
(1)	36.1	ウ 本や図書館に親しむイベントの開催	資料サービス課	図書館ボランティア体験プログラム(リブサポ)の実施	中・高校生を対象に、図書館ボランティア体験プログラム(リブサポ)を実施し、読書や図書館利用についての関心を高める。	市内全11館でリブサポを実施し、本の修理や本の紹介カード作り等の体験プログラムを実施した。	B	市内11館(中央・大宮西部・大宮・与野・北浦和・東浦和・北・春野・桜・武蔵浦和・岩槻)で開催した。延べ157名の中学生が参加し、読書や図書館利用についての関心を高めることができた。	B	申込み方法を見直し、生涯学習情報システムを利用したweb申込みと抽選制を導入する。		
(1)	36.2			小学校中学年を対象とする取組の強化	小学校中学年を対象に本好きになる取組を行う。	おはなし会の実施	小学校中学年を対象に含むおはなし会を全館で557回開催し、幼児・小学生延べ4,246人が参加した。	B	引き続き小学校中学年を対象に含むおはなし会を全館で557回開催し、幼児・小学生延べ4,246人が参加した。	B	引き続き小学校中学年を対象に、各図書館でアニメーションを実施していく。	
(1)	36.3			ビブリオバトルイベントの拡充	ビブリオバトルイベントを各拠点図書館で開催する。	各拠点館においてビブリオバトルイベントを行えるよう職員研修を実施	各拠点館においてビブリオバトルイベントを行えるよう職員研修を実施	B	ビブリオバトル研修を実施し、各拠点館職員にビブリオバトルの楽しさを感じてもらいながら、イベント開催のノウハウを伝えることができた。	B	各拠点館でビブリオバトルイベントを開催できるよう、開催方法や運用について検討し、準備を進める。	
(1)	36.4			おはなし会等の実施	読書や図書館の利用について、子どもたちの興味や関心を高めるイベントを開催する。	おはなし会やイベントの実施	おはなし会やイベントの実施	B	おはなし会等のイベントを市立図書館25館で1,226回開催し、延べ14,841人が参加した。	B	引き続きおはなし会等のイベントを実施する。	

「さいたま市子ども読書活動推進計画(第四次)」事業実施状況調査表

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

施策 基本方針	No.	計画 書掲載 頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和4年度の事業実績		令和5年度の事業の方向性			
							内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
(5) 図書館での取組	(1)	37.1	エ 本や図書館に関する情報発信の充実	資料サービス課	小学校中学年を対象とする取組の強化	図書館ホームページで、本を読むことが好きになるような情報発信を行う。	小学生向けのwebコンテンツの拡充	B	図書館ホームページ内に読み聞かせ動画等の小学生向けコンテンツを14件作成し、情報発信を行った。	B	引き続き小学生向けwebコンテンツの充実を努める。	
	(1)	37.2			SNS等を活用した中高生向けの読書案内の発信	SNS等を活用して、本への関心を高める取組を行う。	図書館のイベントと連動したwebコンテンツの充実	B	市立高校POPバトルの投票を館内だけでなく、図書館ホームページ上でも行い、投票結果を公開した。また、中高生と図書館員のPOP交換展示イベントのページを新たに作成し、公開した。	B	引き続き、webコンテンツの充実を図る。	
	(1)	37.3			読書案内など刊行物の発行	ブックリストや情報誌を作成し、各図書館で配布する。市立小・中・高等・中等教育学校等へ情報提供する。	ブックリスト「本は王さま」の作成・配布	B	子ども読書の日を記念して「本は王さま2022」を4,200部発行し、図書館ホームページ上に公開した。また、「本は王さま2023」の作成を行った。毎年新しく出版される児童書の中から図書館員が選ぶおすすめの本を紹介することができた。	B	「本は王さま2024」の編集・作成を行う。	
							小学生向け読書案内「とよ丸しんぶん」の作成・配布	B	年2回(7月、1月)、各1160部発行し、各図書館、市立小学校で配布を行うとともに、図書館ホームページ上に公開した。図書館ホームページ限定で公開する号外を作成し、公開した。	B	年2回の作成を継続して行う。	
					「Happy go lucky(はぴ)」の作成・配布	B	年3回(4月、7月、11月)、各1400部発行し、各図書館、及び市立中学校・高等学校で配布を行うとともに、図書館ホームページ上に公開した。	B	年3回の作成を継続して行う。			
	(3)	38	オ	さいたま市ゆかりの児童書の収集と紹介	資料サービス課	「さいたまゆかり」コーナーの充実	石井桃子と瀬田貞二を中心に、さいたま市ゆかりの児童文学者の著作や関連資料の収集、展示、講演会や紹介を行う。	図書館ホームページを活用した情報発信	B	ホームページの「中央図書館 さいたまゆかりの児童文学コーナー」内に、さいたま市ゆかりのある児童文学者、石井桃子氏、瀬田貞二氏、斎藤惇夫氏、おかべりか氏の紹介記事を追加公開した。	B	引き続き図書館ホームページを活用した情報発信を行うとともに、資料の収集、展示や紹介を行う。
	(3)	39	カ	障害のある子どもへのサービスの充実	資料サービス課	バリアフリーサービス	読書に障害のある子どもたちに、障害に応じた読書サービスを行う。	ボランティア団体による点訳絵本の作成	B	中央図書館等のボランティア団体の協力により、58冊(昨年度67冊)の絵本を点訳した。	B	引き続きボランティアグループと連携し、点訳絵本の受入れを進め、資料の充実を図る。
								特別支援学校・特別支援学級を対象とするおはなし会の実施	B	特別支援学校への訪問や図書館への招待を行い、市内図書館で2回(昨年度1回)、延べ20人(同14人)に集会行事を行った。	B	引き続き学校からの依頼に応じて随時実施する。
								マルチメディアデジ、LLブックの収集	B	マルチメディアデジを38点(昨年度7点)、LLブックを20冊(同73冊)収集した。	B	引き続きマルチメディアデジ、LLブックの選書と収集を行い、資料の充実を図る。
	(1) (3)	40	キ	多文化・多言語サービスへの取組	資料サービス課	多文化・多言語サービス	日本語を母語としない子どもたちや日本の子どもたちに向けて、児童向けの外国語資料の収集や多言語によるおはなし会を開催する。	外国語資料の収集	B	各館合計で123冊(昨年度152冊)の外国語児童書を新たに受け入れた。	B	引き続き各館で資料の収集を行う。
外国語資料の展示								B	各館で年度中合計1回(昨年度3回)、外国語絵本等の展示を行った。	B	引き続き各館で資料の展示を行う。	
外国語によるおはなし会の実施								B	各館で合計7回(昨年度8回)実施し、延べ79人(昨年度116人)が参加した。	B	引き続き各館で多言語おはなし会を実施していく。	
(3) (1)	41.1 41.2	ク	保育所・幼稚園との連携の推進	資料サービス課	保育所・幼稚園との連携の推進	「図書館ブックリストパック」の提供・PR(再掲)						
						保育所や幼稚園を対象に、訪問招待事業を行い、絵本の貸出しを行う。	保育所や幼稚園の園児を対象としたおはなし会の実施	B	各図書館において保育所や幼稚園対象に保育園訪問を126回(昨年度73回)、保育園招待を6回(昨年度2回)、延べ4,124人(昨年度3,536人)の園児におはなし会を行った。	B	園児がおはなし会や絵本に親しみを持つように、引き続き保育所や幼稚園と連携していく。	
						保育所や幼稚園への団体貸出	各図書館において、保育所や幼稚園を対象に絵本を5146冊(昨年度5,117冊)の貸出しを実施した。	B	引き続き保育所や幼稚園への団体貸出を実施する。			
					団体利用者カードの登録を受け付け、団体貸出サービスを推進する。	団体利用者カードの登録受付	B	保育所や幼稚園の団体利用者カードを新規で13件受付した。	B	団体利用のPRや資料の提供を引き続き行う。		
(3)	42	ケ	公民館との連携の推進	資料サービス課	公民館との連携の推進	公民館と連携し、家庭へ向けたイベントを開催する。	公民館と連携したイベントの開催	B	おはなし会や映画会等、市内で公民館と連携したイベントを48回を開催し、延べ459人が参加した。	B	引き続き公民館と連携し、家庭に向けたイベントを開催します。	

「さいたま市子ども読書活動推進計画(第四次)」事業実施状況調査表

3つの基本方針
(1)楽しむ読書 (2)みんなで読書 (3)支える読書

達成度		方向性	
A	目標以上に実施し、想定よりも大きな効果を得ることができた	A	拡大(新規含む)
B	目標どおりに達成し、想定内の効果を得ることができた	B	継続
C	あまり達成できなかったが、実現に向けて着手している	C	縮小(終了も含む)
D	未着手もしくはほとんど達成できなかった		
-	判定不能。災害等の危機管理上の理由により未達成。		

施策	基本方針	No.	計画書掲載頁	施策の内容	所管・関連部署	事業名	事業の概要	令和4年度の事業実績		令和5年度の事業の方向性			
								内容(複数ある場合は分けて記入してください)		達成度	達成度の理由	方向性	方向性の理由
資料サービス課	(1)	43.1	32	学校との連携の推進	資料サービス課	市立小学校全1年生に読書手帳を配布	児童が意欲的に読書活動に取り組めるように、市立小学校全1年生に「とよ丸どくしょてちょう」を配布する。	市立小学校全1年生に読書手帳の配布	B	「とよ丸どくしょてちょう(1~2年生向け)」を市立小学校1年生に全員配布した。	B	市立小学校全1年生に「とよ丸どくしょてちょう」を配布する。	
								小学校中学年を対象とする取組の強化	B	市内図書館で小学校中学年を対象とした学校訪問を4回開催し、延べ218人に絵本の読み聞かせやブックトーク等を行った。	B	小学校中学年を対象に含む読書イベントの開催や学校での読み聞かせ、本の貸し出しを行う。	
								ビブリオバトルイベントの拡充	B	学校と連携した取り組みを行うため、ビブリオバトルマニュアル「みんなで楽しむビブリオバトル—学校向け実践ハンドブック—」及び「すぐできるキット」を作成した。	B	学校と連携した取り組みを行うため、マニュアル及び「すぐできるセット」を配布する。	
								学校との連携の推進	B	「とよ丸どくしょてちょう(1~2年生向け)」を30,000部増刷し、図書館と学校で配布。市立小学校1年生には全員配付した。また「3~6年生向きとよ丸読書手帳」を、図書館で配布した。	B	子どもが読書週刊を身につける手段の一つとして、読書手帳の利用を進めていく。	
		(1)	43.4	32	学校との連携の推進	資料サービス課	学校との連携の推進	学校と連携して児童生徒の読書活動を推進する取組を行う。	職場体験の受入れ	B	各図書館で職場体験学習のため、212人(昨年37人)を受け入れた。	B	図書館を深く知り、職場体験として学ぶ機会となるよう、引き続き受け入れを実施する。
									学校訪問(図書館職員によるブックトークや読み聞かせ)の実施	B	各図書館から職員が学校を訪問し、合わせて1,018人(昨年度1,004人)に本の紹介等を行った。	B	児童が本に親しみを持てるように、学校と連携して訪問事業を行う。
									学校招待(図書館見学他)の実施	B	各図書館において図書館見学や町たんけんて来館した児童合わせて6057人(昨年度5,126人)に、図書館案内や貸出体験を行った。	B	児童が図書館に日常的に来館し、読書や調べものに利用する機会が増えるように、学校と連携していく。
									資料の収集を行った。	B	教科に沿った内容の資料の購入を行った(725点)。特に昨年度不足しがらだった内容(AI、秋の工作、県内の祭りなど)の補充を行った。	B	資料の収集を継続して行う。
		(3)	44	33	サ 学校図書館への支援の充実	北浦図書館	学校図書館支援センター事業	市立全小・中・高等・中等教育学校及び特別支援学校、教育相談室の授業や取組を資料の側面から支援する。	対象施設への団体貸出を行った。	B	市立小・中・高等・中等教育学校、特別支援学校及び教育相談室へ団体貸出を行った(23,065点)。	B	対象施設への団体貸出を継続して行う。
									対象施設へのレファレンス支援を行った。	B	レファレンス支援を行った(2件)。	B	対象施設へのレファレンスを継続して行う。
『ボランティア向け読み聞かせブックリスト』、『読書ボランティア向け読み聞かせブックリスト』の配布	B								『ボランティア向け読み聞かせブックリスト』及び『読書ボランティア向け読み聞かせブックリスト』を各図書館で配布した。	B	引き続き、読み聞かせボランティアを対象とするブックリストを配布する。		
(3)	45	33	シ 子どもの読書活動推進に関わるボランティアの支援	資料サービス課	子どもの読書活動推進に関わるボランティアの支援	子どもの読書活動に関わるボランティアを支援するため、情報提供や講座を開催する。	読み聞かせボランティアを対象とした読書指導や講座の開催	B	各図書館において講座を開催したり、図書館職員が学校の読み聞かせボランティアを指導したりするなど、延べ37回(昨年度33回)実施し、398人(同257人)が参加した。	B	ボランティアの経験年数に見合う指導により、スキルアップが図れるように、指導的役割を担えるボランティアグループと連携しながら、支援を行う。		
							児童サービス担当者研修会の実施	B	児童サービス担当者向け研修を年間6回計画し、開催した。	B	経験や情報の共有を図り、各館における案内や集金行事に役立つよう、年4回以上の研修会を開催する。		
							児童サービス担当者研修会への参加	B	各館から年間5回開催される埼玉県図書館協会主催の研修会に参加した。	B	児童担当職員が基礎的な知識や技術を身につけられるよう、今後も研修会への参加を促していく。		
計画の進行管理	-	47	15	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	資料サービス課	さいたま市子ども読書活動推進計画に関する事業実施状況調査	調査を毎年実施し、事業の充実を図る。	「さいたま市子ども読書活動推進計画」に関する所管課の事業実施状況の調査と、さいたま市ホームページでの公開	B	各課の取り組み状況を取りまとめ、フィードバックすることで、現状の課題認識と次年度以降の目標設定に役立てることができた。	B	各種の取組状況を取りまとめ、フィードバックすることで、現状の課題と次年度以降の目標設定に役立てる。	
								市立小・中・高等・中等教育学校を対象とした読書調査を、さいたま市学校状況調査により実施	B	昨年度に引き続き、全校調査により小・中学生の読書状況を調査した。	B	継続して調査を行う。	
								市立高等学校を対象とした読書調査を図書館のアンケート調査により実施	B	市立高等学校3校を対象に、抽出により高校生の読書状況を調査した。	B	継続して調査を行う。	